

○津山市立ときわ園運営規則

平成18年9月29日

津山市規則第63号

改正 平成19年4月1日規則第45号

平成26年9月24日規則第34号

平成28年1月15日規則第3号

津山市立ときわ園管理規則（昭和33年津山市規則第22号）の全部を改正する。

（目的）

第1条 この規則は、津山市養護老人ホーム条例（昭和38年津山市条例第39号）第10条の規定に基づき、津山市立ときわ園（以下「園」という。）の運営について必要な事項を定めることを目的とする。

（運営の方針）

第2条 園は、入所者の意思及び人格を尊重し、入所者の処遇に関する計画（以下「処遇計画」という。）に基づき、入所者がその有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるようにすることを目指すものとする。

2 園は、明るく家庭的な雰囲気を有し、地域や家庭との結び付きを重視した運営を行うとともに、市町村、老人の福祉を増進することを目的とする事業を行う者その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

第3条 削除

（職員）

第4条 園に施設長、医師、主任生活相談員、生活相談員、主任支援員、支援員、看護師又は准看護師（次条第7項において「看護職員」という。）、栄養士、調理員、事務員その他の職員を置く。ただし、調理業務の全部を委託する場合には、調理員を置かないことができる。

2 職員の数は、老人福祉法に基づく養護老人ホームの設備及び運営の基準を定める条例（平成24年岡山県条例第60号。第30条において「県条例」という。）第12条第1項に規定する職員の配置の基準によるものとする。

（職務内容）

第5条 施設長は、園の職員の管理及び業務の実施状況の把握その他管理を一元的に行い、当該職員を指揮監督する。

2 医師は、入所者の健康管理及び療養上の指導に関する業務に従事する。

- 3 主任生活相談員は、次項に規定する生活相談員の業務のほか、園への入所に際しての調整、他の生活相談員に対する技術指導等の内容を管理する業務に従事する。
- 4 生活相談員は、処遇計画を作成し、それに沿った支援が行われるように必要な調整を行うほか、次の各号に掲げる業務に従事する。
  - (1) 入所者の居宅サービス等（介護保険法（平成9年法律第123号）第23条に規定する居宅サービス等をいう。以下同じ。）の利用に係る介護保険法第8条第23項に規定する居宅介護支援事業又は同法第8条の2第16項に規定する介護予防支援事業を行う者その他居宅サービス等その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に関する業務
  - (2) 入所者及び当該入所者の家族からの苦情の内容等の記録に関する業務
  - (3) 入所者に対する処遇による事故の状況及び事故に際して採った措置についての記録に関する業務
- 5 主任支援員は、次項に規定する支援員の業務のほか、他の支援員に対する技術指導等の内容を管理する業務に従事する。
- 6 支援員は、入所者の日常生活の支援に関する業務に従事する。
- 7 看護職員は、医師の指示を受け、入所者の健康管理及び投薬治療に関する業務に従事する。
- 8 栄養士は、入所者の栄養献立及び栄養指導に関する業務等に従事する。
- 9 調理員は、入所者の食事の調理に関する業務に従事する。
- 10 前各項に規定する職員以外の職員は、入所者の処遇、園の事務等に従事する。

（入所者の処遇）

- 第6条 園は、入所者の心身の状況、置かれている環境、当該入所者及びその家族の希望等を勘案し、処遇計画を作成しなければならない。この場合において、園は、入所者の処遇の状況等により、適宜当該処遇計画の見直しを行うものとする。
- 2 園は、前項の処遇計画に基づき、入所者が有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、当該入所者の心身の状況等に応じ、社会復帰の促進及び自立のために必要な指導及び訓練その他の援助を行わなければならない。
  - 3 園は、入所者又はその家族に対し、処遇上必要な事項について説明を行わなければならない。

- 4 園は、入所者又は他の入所者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束その他入所者の行動を制限する行為（次項において「身体的拘束等」という。）を行ってはならない。
- 5 園は、身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、入所者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。

（入退所）

第7条 園は、新たに入所した者に対し、次の各号に掲げる処置を行わなければならない。

- (1) 園の目的、方針、日課その他入所中参考となる事項の説明
  - (2) 衣類及び所持品の点検並びに健康診断に基づく予防衛生上必要な措置
  - (3) 心身の状況、生活歴、病歴等に関する調査
- 2 園は、居宅において日常生活を営むことができると認められる入所者に対し、円滑な退所のために必要な援助に努めるものとする。
  - 3 園は、入所者が退所しようとするときは、保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。
  - 4 園は、入所者が退所した後においても、必要に応じ、相談援助等適切な援助に努めるものとする。

（日課）

第8条 園は、入所者の日常生活について、処遇計画に基づき日課を定め、これを励行させるものとする。

（生活相談等）

- 第9条 園は、入所者に随時面接し、又は面接の機会を与えるよう配慮し、入所者又はその家族の相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行わなければならない。
- 2 園は、要介護認定（介護保険法第19条第1項に規定する要介護認定をいう。）の申請等、入所者が日常生活を営むのに必要な行政機関に対する手続について、当該入所者又はその家族において行うことが困難である場合は、当該入所者の意思を踏まえて速やかに必要な支援を行わなければならない。

（居宅サービス等の利用）

第10条 園は、入所者が要介護状態等（介護保険法第2条第1項に規定する要介護状態等をいう。）になった場合には、適切に居宅サービス等を受けることができるよう、必要な措置を講じなければならない。

（食事）

第11条 園は、入所者の食事に当たっては、献立表及び食事提供量表を作成しなければならない。

2 園は、栄養並びに入所者の心身の状況及び嗜好を考慮した食事を、衛生的に調理し、適切な時間に提供しなければならない。

(入浴等)

第12条 園は、1週間に2回以上、入所者を入浴させ、又は清拭しなければならない。

(健康管理)

第13条 園は、入所時及び毎年定期的に2回以上健康診断を実施しなければならない。

2 園は、前項の健康診断を行ったときは、その結果を記録しなければならない。

(衛生管理等)

第14条 園は、常に入所者の保健衛生に留意し、当該入所者の衣類及び居室、調理室、便所等の清潔を保持するように努め、次の各号に掲げる事項を実施しなければならない。

(1) 必要に応じて病虫害の駆除を行うこと。

(2) 感染症及び食中毒の予防並びにまん延の防止のための措置を定期的に又は随時講ずること。

(3) 園の調理を担当する者の検便を月1回以上行うこと。

(4) 貯水槽の清掃を年1回以上行うこと。

2 前項各号のほか、保健衛生上、必要に応じて清掃を実施しなければならない。

(施設内医療)

第15条 園は、週1回以上の定例診療日を定めて入所者の診療を行うとともに、協力病院を定め、必要に応じて定例診療日以外でも随時必要な診療が受けられるよう措置しなければならない。

(教養娯楽)

第16条 園は、入所者の教養及び娯楽のための設備を整え、入所者が自由に利用できるよう配慮するとともにレクリエーションを適時行うよう努めなければならない。

(労務)

第17条 園は、入所者が希望したときは、内職、手伝い等の作業を行わせることができる。

2 前項の作業を行うに当たっては、園内の秩序を乱し、健康を害し、その他の弊害を生ずることのないよう配慮しなければならない。

(共同生活の秩序維持及び相互の親和)

第18条 入所者は、共同生活の秩序を保ち、相互の親和に努めなければならない。

(日課表)

第19条 入所者は、園の定める日課表に従い、起床、洗面、整とん、食事、休養及び就寝を行うものとする。ただし、日課表に従うことができない者は、園に申し出てその指示に従うものとする。

(外出)

第20条 入所者が外出しようとするときは、その都度外出先、用件及び帰園の時刻等を園に申し出なければならない。

(面会)

第21条 入所者が外来者と面会しようとするときは、外来者の氏名、続柄、面会時間等を園に申し出なければならない。

(入所者の守るべき事項)

第22条 入所者は次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 火気の取扱いに注意し、たき火、自由炊事及び所定の場所以外での喫煙をしないこと。
- (2) 建物、備品その他の器具を破損し、若しくは持ち出さないこと。
- (3) けんか若しくは口論又は暴行等をして他人の迷惑になることをしないこと。
- (4) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害する行為をしないこと。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、この規則及び職員の指示に反した行為をしないこと。

(変動届)

第23条 入所者は、収入の状況等に変動があったときは、園に届け出なければならない。

(非常災害対策)

第24条 園は、非常災害に備え、次の各号に掲げる事項を定期的に継続実施しなければならない。

- (1) 消火、避難、警報その他の防災に関する設備及び火災発生等のおそれのある箇所の点検整備
- (2) 所轄消防署との連絡及び避難訓練

2 前項各号に掲げる事項の実施の細目については、施設長が別に定める。

(秘密保持)

第25条 園の職員又は園の職員であった者は、正当な理由がなく、業務上知り得た入所者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。

(苦情への対応)

第26条 園は、その行った処遇に関する入所者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置するものとする。

(地域との連携)

第27条 園は、その運営に当たっては、地域住民又はその自主的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流に努めるものとする。

(事故発生時の対応)

第28条 園は、入所者に対する処遇により事故が発生した場合は、速やかに措置の実施機関、家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じるものとする。

2 園は、入所者に対する処遇により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行うものとする。

(実施機関への届出事項)

第29条 施設長は、入所者について次の各号に掲げる事由が発生したときは、措置の実施機関に届け出なければならない。

- (1) 入所者が死亡したとき及びその者に遺留金品があったとき。
- (2) 入所者の世帯構成に変動のあったとき。
- (3) 入所者の収入又は資産に変動のあったとき。
- (4) 入所者の扶養義務者に変動のあったとき。
- (5) 入所者がこの運営規則に従わないとき。
- (6) 入所者が不実の申請その他不正の手段により保護を受けていると認められるとき。
- (7) 入所者が園内では治療することができない病気にかかり、又は負傷したとき。
- (8) 入所者が園を利用する必要がなくなったと認めるとき。

(記録の整備)

第30条 園は、設備、職員、会計、入所者の処遇の状況等に関する諸記録を県条例第9条各項に規定し、又は市長が別に定めるところにより整備しておかなければならない。

(その他)

第31条 この規則に定めるもののほか、園の運営に関し必要な事項は、市長の承認を得て施設長が別に定める。

付 則

この規則は、平成18年10月1日から施行する。

付 則 (平成19年4月1日規則第45号)

この規則は、公布の日から施行する。

付 則（平成２６年９月２４日規則第３４号）

この規則は、平成２６年１０月２０日から施行する。

付 則（平成２８年１月１５日規則第３号）

この規則は、平成２８年４月１日から施行する。